



Title	「生きる力を支える歯科医療：歯科健診の充実を目指して」
Author(s)	深田, 拓司
Citation	目で見えるWHO. 2012, 49, p. 13-14
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86753
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



「生きる力を支える歯科医療～ 歯科健診の充実を目指して」

(社)大阪府歯科医師会 常務理事 深 田 拓 司



Hirotsuka FUKATA

1958年 大阪府生まれ
1983年 大阪歯科大学卒
1988年 深田歯科医院開業
2011年 大阪府歯科医師会常務理事

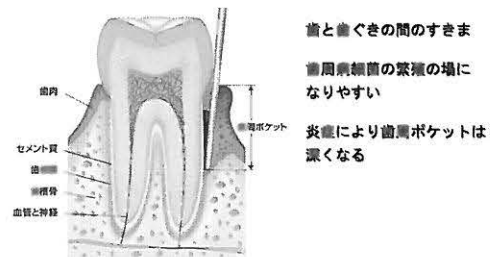
平成 21 年からは、歯と口の健康と食育という観点から「カミングサンマルを目指して」が始まりました。一度口に入れたものは 30 回噛もうということです。

歯というのは、上下 7 本で左右合わせて 28 本あります。このうち 8 本失っても、十分噛めるということで、平成元年から始まった「8020 運動」というのは 80 歳まで 20 本の歯を残そうという運動です。この時の達成率は、わずか 7%でした。平成 12 年からは「健康日本 21」という運動がスタートし、平成 19 年には「8020 運動」の達成率は 25%になりました。さらに昨年、歯科医師会が長年要望していた歯科口腔保健の推進に関する法律が施行されて、10 年後には「8020 運動」の達成率を 50%にすることを目標にしています。

なると歯垢（プラーク）がついて骨にも影響が表れて歯茎が腫れてきます。重度になると骨が 3 分の 2 ほどなくなり歯茎が腫れて歯垢が石灰化し、歯石になります。歯周病になると歯石の付着により、骨がやせて、歯茎が腫れ、歯磨きをすると出血します。

歯周病の原因は歯垢。歯垢は歯にくっついている細菌の塊です。歯に付着した歯垢により細菌が繁殖します。400 種類もの細菌は空気のないところで繁殖する嫌気性がほとんど。これらは歯周ポケットで繁殖し歯周組織に炎症を起こします。

歯周病の検査（歯周ポケット検査）



2mm以下	2～6mm	6mm以上
健康	歯周病の可能性	進行した歯周病

歯周病の進行は？



歯茎がピンク色で引き締まっている健康な歯と比べると、軽度の歯周病は歯茎だけが軽く腫れています。中等度に

歯周病の検査は、歯周ポケットの深さを測定します。炎症により歯茎がはれ、骨がやせるので、ポケットが深くなります。健康な人の歯と歯茎の隙間（歯周ポケット）は 2mm 以下で、3～6mm なら歯周病になっている可能性がある。6mm 以上だと進行した歯周病です。

歯の喪失の主な原因は虫歯と歯周病で、歯周病で歯をなくす人の割合は 42%もあります。成人の歯周病の罹患率は 80%に及んでおりますので、きちっと歯周病の処置をしないと、歯を喪失するリスクが高くなり、全身の病気へもつながっていくのです。

歯のぐらつきを調べたり、X線撮影で骨の吸収を確認したりする。一見健康そうに見えても歯石がついているのが確認でき、骨が吸収されていることが分かります。

歯周病の検査（X線写真）



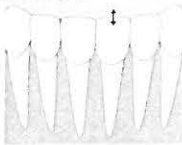
歯周病の検査（動揺度）



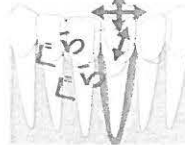
ピンセットで歯を動かす

動く状態により歯周病の
進行度を診査する

健康な状態



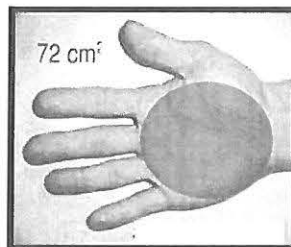
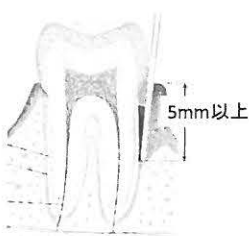
歯周病



例えば、5mm以上の歯周ポケットのある歯が20本以上あれば、手の平大の潰瘍があるのと同じと考えられています。

歯周ポケットの病巣とは

5mm以上の歯周ポケットの有る歯が20本あれば、手のひらサイズの潰瘍があるのと同じ。
その潰瘍から種々の細菌が出ず毒素が全身に...



歯科医院で行われている「プロフェッショナルケア」では、患者さんのお口の状態に合ったブラッシングの指導を行います。歯石の除去、プラーク（歯垢）の除去、汚れを取る着色除去、もっとひどくなると外科処置を行います。

プラークにいる細菌は血管に損傷を与えます。全身に悪影響を与え、さまざまな病気を引き起こします。特に奥歯がなくなると、歯列もおかしくなり、物が噛めなくなります。そのために「8020運動」を推進しているのです。

ケアは、特殊な器具を使って歯をクリーンにしていきます。普段は見えない歯の裏なども、しっかりきれいにします。

実は、入れ歯にも歯石はたまります。唾液中のカルシウムが沈着してできるからです。そのため、定期的な治療が必要なのです。

メンテナンスと定期健診

歯周病の再発を防ぐためにメンテナンスを行い、虫歯など他に問題がないか定期健診も行います。

＜内容＞
・検査
・クリーニング
・歯石取り
・口腔衛生指導
・フッ素塗布



歯周病の治療の目的は、「健康だった時の状態に戻す」のではなく、

「これ以上進行しないようにする」ことです。

歯周病のケアで、まず家庭でやっていただきたいのが、歯に合った歯ブラシやデンタルフロスを使った歯磨きと、喫煙、食生活などの生活習慣の改善です。

歯周病菌が血液に入ると、動脈硬化や心臓病、糖尿病などを引き起こしたり、悪化させたりします。特に糖尿病で10年間、HbA1cが8.0%以上だと、歯を失う確率は糖尿病でない人の2.8倍にもなっています。ケアをして歯周病を悪化させないで、全身の病気にかからないことです。

歯の健康診断は歯の状態、歯茎の状態、口の中の粘膜の状態、噛み合わせの状態、全身の状態、生活習慣などです。歯の検診を受けて治療しておくことは、医療費の削減にもつながってきます。歯周病と関係する病気の医療費が減少するからです。つまり、医療は自分自身への投資なのです。費用の減少が重要なのではなく、口腔を治療・ケアすることで予防できる病気がたくさんあり、歯の健診によって国民の健康に大きく貢献でき、全体の健康につながられることをお伝えしたかったのです。ですから、歯周疾患を治療することは大切です。しっかりケアしましょう。

歯周病と全身の関わり

お口の健康が体の健康を守ります

